

各関係機関団体の長 } 殿
各病虫害防除員 }

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

技術情報第 3 号

ナシ黒星病の発生について

5 月 2 半月調査の結果、ナシ黒星病の発生程度はほ場間での差はあるものの、平年より高く前年並でした。

感染源となる発病葉や発病果がほ場内にあると、降雨後に新葉や果実への感染が懸念されます。

園での発生状況を把握し、耕種的防除と適正な薬剤防除の徹底により 2 次感染防止に努めて下さい。

1 対象作物名：ナシ

2 病虫害名：黒星病

3 発生状況

5 月 2 半月調査における発病果率及び発生ほ場率は平年より高く、一部で発病果率が 10%を超える多発ほ場が認められた。

発病葉率 0.4% (平年 0.5%、前年 1.6%)

発病果率 4.6% (平年 2.8%、前年 3.0%)

発生ほ場率 90.9% (平年 50.5%、前年 90.9%)

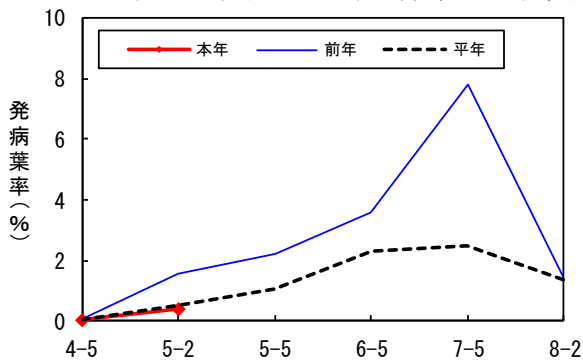


図1 黒星病(発病葉)の発生推移 (月一半旬)

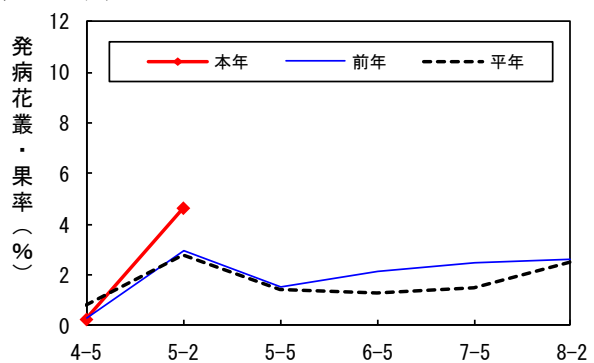


図2 黒星病(発病果)の発生推移 (月一半旬)

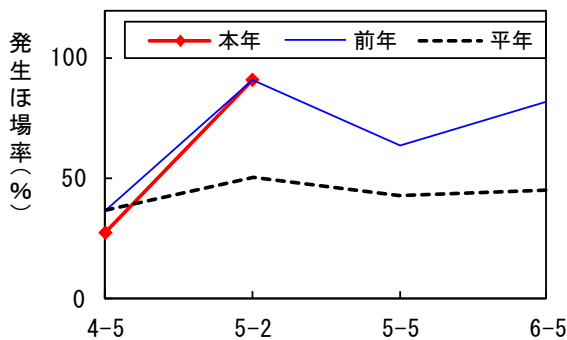


図3 黒星病発生ほ場率の推移 月一半旬

4 防除対策

- (1) 伝染源となる罹病葉や罹病果は、見つけ次第園外に持ち出し処分する。
- (2) 薬剤感受性の低下をさけるため、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。
- (3) 薬剤防除にDMI剤やQoI剤を用いる場合は、薬剤耐性菌の発生リスク低減のため年間の使用回数を遵守する。特にDMI剤を用いる場合は、保護殺菌剤と混用することにより防除効果の維持が期待できる（詳細は、平成29年度病害虫・雑草防除の手引き 3 防除方法の試験研究成果等 果樹 VII ナシ黒星病菌のDMI剤感受性とDMI剤と保護殺菌剤の混用効果 (P28) を参照）。

http://www.pref.fukuoka.lg.jp/uploaded/life/254826_52472279_misc.pdf

- (4) 「幸水」の果実は開花 60 日後以降、再び感染しやすくなるため、果実への感染防止に努める。



葉柄に発病したナシ黒星病（丸囲みした部分）



幼果に発病したナシ黒星病（矢印の部分）

○病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「福岡県病害虫防除所ホームページ」 <http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/>

福岡県病害虫防除所



最新の病害虫発生状況